

経 済 統 計 学 会

第64回(2020年度)

全国研究大会プログラム

- | | | | |
|-----|---|------------|--------------------|
| 期 間 | : | Web 報告会の開催 | 2020 年 11 月 7 日(土) |
| | | | ~ 11 月 8 日(日) (予定) |
| | : | 報告集原稿提出締切 | 2020 年 12 月 10 日 |
| | : | 報告集刊行 | 2021 年 1 月末 |

2020 年度全国研究大会実行委員会
実行委員長 神戸大学 農学部 金子治平

〒657-8501 神戸市灘区六甲台町 1-1
神戸大学 農学部

TEL : 078-803-6576

E-mail : kaneko@kobe-u.ac.jp

セッションA：共通論題セッション（学会本部企画）

国勢調査の100年

コーディネータ：全国プログラム委員会 座長：金子治平(神戸大学)

1. 佐藤正広（東京外国語大学）
国勢調査ことはじめ—国勢調査実現に向けた明治期の議論
2. 阿向泰二郎（総務省統計局）（@Web）
令和2年国勢調査の実施について
3. 山田 満（東北・関東支部）
それでも国勢調査を防衛しなければならない：フーコー、アルチュセール、統計的公民
4. 上藤一郎（静岡大学）（@Web）
ベルギーにおける第1回国勢調査と A. Quetelet

（注）（@Web）印は Web 報告会報告者（以下同様）

セッションB：企画セッション

国勢調査前史

コーディネータ：小林良行（総務省統計研究研修所）・全国プログラム委員会

1. 山口幸三（総務省統計研究研修所）
明治12年の甲斐国の人口調査
2. 小林良行（総務省統計研究研修所）
甲斐国現在人別調の製表事務とモーリス・ブロックの『統計論』
3. 森 博美（東北・関東支部）
杉亨二における静態と動態
4. 廣嶋清志（東北・関東支部）
国勢調査前の職業別人口調査

セッションC：企画セッション

人口センサス—国際動向と利活用

コーディネータ：小林良行（総務省統計研究研修所）・全国プログラム委員会

1. 阿久津文香（総務省統計局）
イギリスにおける人口センサスの変革
2. 西村善博（九州支部）
フランスの人口センサスの行政利用および現在の課題
3. 伊藤伸介*（中央大学）・寺田雅之（NTTドコモ）
メッシュ統計データにおける高度な攪乱的手法の有効性について

（注）*印は報告者（以下同様）

セッションD：企画セッション

人口減少社会における地域の統計分析

コーディネータ・座長：菊地 進（東北・関東支部）

1. 芦谷恒憲（兵庫県立大学 産学連携・研究推進機構）
兵庫県における地域データを用いた政策課題分析の事例と課題
2. 丸山洋平（札幌市立大学）（@Web）
地域人口の再生産指標に人口移動の影響を反映させる試み
3. 新井郁子*・西内亜紀（公益財団法人 統計情報研究開発センター）・草薙信照（大阪経済大学）（@Web）
中部国際空港が周辺地域に与えた影響 ―地域メッシュ統計による分析，関西国際空港との比較―
4. 小西 純（公益財団法人 統計情報研究開発センター）
地域メッシュ統計データによる知識産業従業者の集積地域の把握

セッションE：企画セッション

労働・生活・福祉問題と統計

コーディネータ・座長：水野谷武志（北海学園大学）

1. 伊藤陽一（東北・関東支部）（@Web）
COVID-19 パンデミックによる国際的貧困・格差・生活苦の増加と展望
2. 宮寺良光（岩手県立大学）（@Web）
既集計の公的統計データを用いた児童虐待発生 の社会要因に関する分析
3. 坂西明子（立命館大学）（@Web）
東京圏の就業と居住地の変化
4. 村上雅俊（阪南大学）（@Web）
世帯の働き方の組み合わせで見るワーキングプア―2007年『就業構造基本調査』匿名データを利用して―

セッションF：企画セッション

「北京+25」とジェンダー統計

コーディネータ・座長：杉橋やよい（専修大学）

1. 伊藤陽一（東北・関東支部）（@Web）
「北京+25」におけるジェンダー統計の成果と課題
2. 橋本美由紀（高崎経済大学非常勤講師）（@Web）
家計サテライト勘定に関するUNECEの新たな指針と日本の試み
3. 杉橋やよい（専修大学）（@Web）
分布特性値による男女間賃金格差の検討
4. 栗原由紀子（立命館大学）
子育て世代にみる生活時間と地域特性の構造変化

セッションG：企画セッション

メタデータの作成・提供に関する現状と課題

コーディネータ：小林良行（総務省統計研究研修所）・伊藤伸介（中央大学）

1. 小林良行（総務省統計研究研修所）
統計編成過程における統計情報の動態モデル
2. 伊藤伸介（日本学術振興会/中央大学）
わが国における分野横断的なデータカタログの整備に関する現状と課題
3. 谷道正太郎（総務省統計局統計作成支援室）
公的統計機関におけるメタデータの整備状況について
4. 西村正貴（独立行政法人統計センター）
政府統計の総合窓口(e-Stat)におけるメタデータ提供の現状と課題

セッションH：企画セッション

国民経済計算・国際収支の改訂に向けた諸問題

コーディネータ：櫻本 健（立教大学）

1. 武田英俊（京都大学 大学院総合生存学館）（@Web）
暗号資産のマクロ経済統計における取扱い：国際収支統計を中心に
2. 萩野 覚（総務省統計委員会）（@Web）
グローバル化とSNA
3. 櫻本 健（立教大学）（@Web）
2025SNA 導入に向けた産出額補正の検討

セッションI：一般報告

コーディネータ：村上雅俊（阪南大学）

1. 泉 弘志*（関西支部）・戴 艶娟（広東外語外貿大学）・李 潔（埼玉大学）（@Web）
国際産業連関表による日本の剰余価値率の計測—国際価値の理論を踏まえて
2. 木下英雄（大阪経済大学）
国際産業連関表を用いた労働需要変化の要因分析
3. 李 潔（埼玉大学）（@Web）
SNA と MPS の主要マクロ指標の比較
4. 藤井輝明（大阪市立大学）（@Web）
通貨プレミアと幕末開港期の日本両の価値推計
5. 池田 伸*（立命館大学）・田中 力*（立命館大学）（@Web）
有意性検定論再々考：歴史と課題
6. 高橋雅夫（独立行政法人統計センター）
夫と妻の家事時間・労働時間の変化
7. 高部 勲（総務省統計データ利活用センター）
公的統計マイクロデータの二次的利用の取組について

8. 伊藤伸介* (中央大学) ・横溝秀始 (滋賀大学大学院/総務省統計局)
事業所・企業系の統計調査に対する匿名化措置の可能性について
9. 大井達雄 (和歌山大学)
観光政策の国際比較

お知らせとお願い

1. Web 報告会のプログラムについては、9月11日に学会ホームページ、学会メーリングリストを通じてお知らせします。なお、Web 報告会の開催は11月7日と11月8日を予定しておりますが、プログラム編成の結果により日程が変更となる場合があります。変更となる場合はあらためてお知らせします。
2. Web 報告会の各報告者の報告時間は質疑を含め原則1報告30分とします。企画セッションでは、報告時間の配分・運用が異なる場合があります。詳しくは各セッションのコーディネータ、または座長にご確認ください。
3. Web 報告会の聴講・参加希望の有無を Web 報告会のプログラム確定後に募集する予定です。
4. 報告者の方（Web 報告会で報告される方、報告されない方含む）は、今後電子メールでお知らせする要領で、『第64回全国研究大会報告集』（仮題）の原稿の送付をお願いいたします。原稿の締め切りを12月10日としています。ページ数は1報告当たり2～4頁としています。なお、課題や仮説の開示だけでなく報告の結論を必ず含めた論述形式として構成してください。原稿のレイアウト等については別途お知らせします。
5. 不測の事態により、Web 報告会が予定通り開催できない場合には、学会ホームページや一部の支部ではメーリングリスト、あるいは電子メールなどにて本会の対応をお知らせします。また、研究大会にかかわる追加的なお知らせ事項等については学会ホームページにて行います。

経済統計学会 2020年度全国研究大会プログラム委員			
委員長	村上雅俊（関西支部）		
副委員長	小川雅弘（関西支部）		
委員	水野谷武志（北海道支部）	鈴木雄大（北海道支部）	
	伊藤伸介（東北・関東支部）	尹 清洙（九州支部）	